西幼だより

羽島市立西部幼稚園
令和８年１０月１６日　No.１１

１０の姿は遊びの中で育つ！

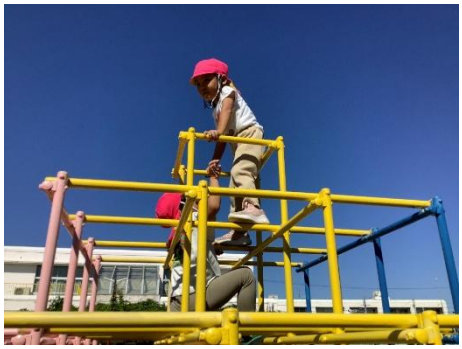
「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」というのがあることは、ご存じでしょうか。右図のように幼児期において育みたい資質･能力が育まれている具体的な姿のことで、特に５歳児後半に見られるようになる姿とされています。

それは、「遊び」の中で育まれる姿でありますが、ただ、遊んでいるだけでは育たない姿でもあります。

教師は、幼児が「遊び」から学んでいくにはどうしたらよいか話し合い「遊び」の計画（指導計画）を作成します。「遊び」を通した「学び」は人やものなど周りの環境が大切なので、教師は、幼児が「遊び」から何を「学ぶ」かを予想し、思わず関わりたくなるように準備していきます。

一人一人の幼児を理解し、一緒に遊びながら幼児の興味が広がったり深まったりしてさらに楽しめるようにします。教師がすぐに手助けすると自分で工夫したり、友達と助け合ったりする機会が少なくなることもあるため、教師はすべてを手伝うのか、ヒントを与えるのか、自分たちで解決できるまで見守るのかなどを考えて関わります。





最近の姿からご紹介します。

たんぽぽ組のこどもたちは、ジャングルジムの頂上まで上がりたいという夢（目標）をもっていました。ある日、一人の男の子が一番高いところまで上がることができ、「先生、見て」と頂上から得意げに叫んでいました。

「私ものぼりたいな」と思っていたある女の子は、外側から上ると途中からつかまるとことがなくなってしまい、怖くなってうまくいきませんでした。「先生、私も上りたい」と訴えてきました。教師は、上がるヒントだけを与えます。「一番高いところを両方の足と手で上がっていけるところは、どこだろうね？」

すると、その子は外側でなく、中に入って「ここならできそう」と言いました。すると、両手を使って器用に一番高いところまで上っていけました。その時、教師は「そうそう、いいよ、あと少し、ゆっくりでいいよ」と励まし続けました。一番上まで上がり、満面の笑みを浮かべてにっこり！

「健康な心と体」は、**幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになるという姿を目指しています。**

このように、こどもたちは「遊び」を通して、様々な力を育んでいくのです。時々、園内に掲示してあるドキュメンテーション（写真と文章によるこどもの育ちの掲示）を見ていただけるとよくおわかりになると思います。

お知らせ
１１月６日（金）にCCNの方が「ちびっこぱあく」（幼稚園紹介番組）の取材に見えます。撮影されたものは、１２月中に放映される予定です。撮影NGの方は、担任までおしらせください。